

KSKP

たびだち つうしん

出

発

通

信

NPO法人 出発のなかまの会

185号

一九八四年八月二十日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6の日)発行



もくじ

絵・高橋 悟

さまざまな文化との出会い♪	2
映画『杳かなる』自主上映会のご案内	3
離島は未来の最前線であることを感じた夏	4
プロ野球観戦に行っていました	6
おしゃべりの絶えないヘルパー交流会	7
酒見敦子さんを偲んで	8
スタッフ子育て日記	10
総会報告	11
活動のあと	12

## さまざまな文化との出会い♪

大阪市生野区には外国をルーツに持つ住民が多く、人口約12万7千人のうち、2割強の約3万人が外国籍住民で、その国籍は約80ヶ国に及んでいます(2025年3月末)。区内には8校の日本語学校があり、毎年多くの留学生が生野区で日本での生活をスタートしています。当会でも、数年前から外国人職員(主に留学生)をパート職員として受け入れるようになりました。国籍は様々で、これまでにインドネシア、中国、韓国、ネパール、モンゴル、ミャンマーの方々と共に活動してきました。受け入れる現場職員には戸惑いが大きいところもありますが、それ以上に多くの気づき、発見があります。

そのうちの一人、Aさんは4月にミャンマーから日本に来られ、5月の初めから児童部門で働き始めました。Aさんは「(話せるのは)ミャンマー語、日本語は少しだけ(話せる)、英語はもっと少しだけ(話せる)」とジェスチャー付きで教えてくれました。なかなか言葉が通じず、初日にGoogle翻訳を使って苦労して書いてもらった業務記録には「きれいな水をつくりました」とありました。どうやら「トイレ掃除」のことだったようですが(笑)、お互いに想像力と表現力を駆使しながらのコミュニケーションが続きます。それでも、いつもニコニコ、積極的に子どもたちの遊びに関わろうとし、子どもたちが熱心に取り組んでいると「ガンバレ!」と一生懸命声をかけて応援してくれるAさんは、すぐに人気者になりました。

そんなAさんを含め、留学生たちがいつも困るのが、子どもの遊びのルール。鬼ごっこやかくれんぼ、だるまさんがころんだなど、スタンダードな遊び方に加え、その時その時で“独自ルール”が生まれたり、なくなったりします。ある日、いつものようにみんなで鬼ごっこをすることにりましたが、「Aさんにルールを教えないといけないんじゃない?」とい



う話になりました。そこで、登場したのがBさん(小学校6年生)。Bさんは、「ちょっとこっちに来て」と職員を呼び、二人でデモンストレーションが始まりました。まず、「鬼です」とBさんが手をあげ、職員を追いかけて走るジェスチャーをします。「タッチ」と職員にタッチすると、職員が「鬼です」と言い、Bさんを走って追いかけるジェスチャーをします。「タッチ返しは?」との質問に、またまたジェスチャー付きで説明し、「X!!」と大きなジェスチャー。Bさんは普段、人前で説明したりするのは苦手な子です。この鬼ごっこのルールがAさんにどこまで伝わったかはわかりませんが、「伝えたい」「一緒に遊びたい」という気持ちでコミュニケーションの出発点であり、いろんな工夫、意欲を生むのだと改めて感じ、Bさんの積極的な発信に嬉しくなりました。

いろんな国の方が来てくれるおかげで、子どもたちの興味も広がります。留学生たちに「子どもたちに、あなたの国の文化や食べ物を教えてほしい。食べ物は、ぜひ一緒に作って食べましょう。」とお願い

すると、みんな「いいんですか？ぜひ、やりたい」と二つ返事で OK してくれます。中には「これまで実家では料理したことがない」と言いながら、調理の練習をして来てくれる方もいます。当日はそれぞれに工夫して、母国の言葉や気候、教育システム、人々の暮らしなどを教えてくれ、子どもたちは「昼休みが長くていいな～」「そんなに勉強させられるのは嫌だな～」と口々に感想を言いながら、どんどん積極的に質問していきます。また、未知の食べ物の作り方や見た目に驚きつつ、「おいしい」「辛い」「また食べたい」など、とても楽しそうです。“知らない外国”への興味は薄い子も多いのですが、“知っている人の国”には自然に興味もわいてくるようです。“お祈りする時間が必要”“食べてはいけない物がある”など宗教や文化による違いも感じつつ、どうすれば共に活動していけるのか工夫や配慮も必要ですが、“共に過ごしたい”という気持ちが新たな発想を生む原点になるのだろうと感じています。と、ここまで書いて気づきました。これって、障害のある方たちと“共に生きる”実践を続けてきた私たちには得意分野のハズ。これからも、多様な価値観との出会いにワクワクしながら活動を続けたいと思います。

(勝井 操)

## 映画「杳かなる」自主上映会のご案内

NPO法人ちゅうぶさんとNPO法人自立生活センター・おおさかひがしさんと一緒に上映会を企画しました。ALS当事者の生活を丁寧に撮ったドキュメンタリーです。ALSは病気の進行により全身の筋肉が動かなくなってしまう難病です。監督は「風は生きよという」(2016年)「道草」(2018年)などの作品で知られる宍戸大裕さんです。2回上映の合間に、本作に出演されている出演者と大阪の障害当事者にご登壇していただき、トークショーも予定しています。



会場 阿倍野区民センター大ホール

日時 2025年11月17日(月)

入場料 500円(介助者無料)

※前売り券はございません

※上映会1回目と2回目は同じものです。

ご都合の良い方をご鑑賞ください

10:15開場

10:50上映(1回目)

13:00トークショー

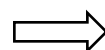
ゲスト:佐藤裕美さん(出演者)

:宍戸大裕監督

:大阪の障害当事者

14:00上映(2回目)

●映画「杳かなる」公式ホームページ <https://harukanaru.com/>



りとう みらい さいぜんせん かん なつ  
**離島は未来の最前線であることを感じた夏**



ひょうごけん なんせいぶ はりまなだ おきあい だいしやう しまじま こうせい いえしましやとう ひょうごけんみん し  
 兵庫県の南西部、播磨灘の沖合に大小44の島々で構成されている家島諸島。兵庫県民でさえ知ら  
 ない人もいます。ゆうじんとう いえしま ぼうぜしま だん がしま にしま どう ねんじてん やく にん  
 有人島は、家島、坊勢島、男鹿島、西島の4島。2022年時点で約4,000人が  
 暮らしています。しかし、いえしま か こ ねんかん やく わり じんこう げんしやう どうみん やくはんすう さいい  
 家島では過去15年間で約5割もの人口が減少し、島民の約半数が65歳以  
 上と、既に日本の未来の問題に直面している場所でもあると言えます。その家島をこの夏、訪問してき  
 ました。

じつ いえしま かんけい どうかい リじ いえしま ちいきほうかつ  
 実はわたしもそれまでは知らなかった家島との関係は、当会の理事であるSさんが家島の地域包括  
 しえん センターに赴任していたこと縁から始まっています。2019年、当時家島で島外から移住し、8年  
 ほどが経過するなかでまちあるき案内などの活動をしていた「いえしまコンシェルジュ」のNさんが面  
 しろ かつどう かい  
 白い活動をされているのでぜひ会ってみたらとSさんにすすめられました。まつののうえん いっしょ かつどう  
 松野農園で一緒に活動に  
 とく ひと すうにん がつ いえしま わた であ  
 取り組んでいた人たち数人とSさんと11月に家島に渡ったことがはじめての出会いでした。

いえしま さいしよ しょくじ いえしま げんかんぐち まうらこう  
 家島での最初の食事は家島の玄関口・真浦港のすぐそばにあるNさんが経営する「海のみえるカフ  
 ェスコット」での、ぜっぴん さかな さらもり こんかい たび い ひ ざんねん  
 絶品の魚の皿盛でした。今回の旅でもスコットに行きましたが、その日をもって残念  
 ながら閉店となったことを知ったときには何かの縁を感じました。Nさんとはじめてお会いした時にアル  
 コールのおかげと大阪市東成区のご出身ということもあって話が弾み、なぜ家島に移住をされるまで  
 いた など はなし き さいいじやう はな  
 に至ったのか等の話を聴かせていただきました。わたしよりも15歳以上も離れていましたがそのチャレ  
 ンジ精神と島外から来て島に溶け込もうとさまざまな活動に取り組む思いに、心うたれたことがいまも  
 のこ ぞん しんがた まんえん あし ほこ  
 残っています。しかし、ご存じのようにパンデミックになった新型コロナウイルスの蔓延により、足を運ぶこ  
 とは出来ませんでした。

ねん さいげつ だいがく れんけい いえしまかつせいか た あ がくせい  
 5年ちかくの歳月のなかでNさんは大学と連携しながら家島活性化プロジェクトを立ち上げ、学生に  
 いえしま き き かい そうじゆつ ねんかん しゆくはくしせつ いっとうがし しゆくはくしせつ いえしま  
 家島に来てもらう機会を創出しました。また、念願だった宿泊施設(一棟貸の宿泊施設)家島ハレテラ

ス)を開設するなどのめざましい活躍を遂げ、昨年兵庫県「人間サイズのまちづくり賞」最高位を受賞されました。その「家島ハレテラス」には今年の 4 月にメンバー、スタッフで宿泊し、テレビ、時計のない島時間を満喫してきました。

「家島ハレテラス」に宿泊してきたことを S さんにお伝えしたときに「わたしももういっぺん行ってみたいなあ。」と話をされました。N さんからも S さんの近況を聞かれることもあって、自分が取り組んできた活動をどうみているのかを S さんに会って聞いてみたいという希望も聞いていました。そうなれば、機会を逃がしてはいけない思いがわいてきて、お忙しい S さんのスケジュールを確認し予定をおさえてもらいました。折角の機会なので、生野で一緒に活動している人たちにも声をかけ、現地との日程調整や手配、予約、いろいろと紆余曲折ありましたが、1泊2日7名で家島・坊勢島に行きました。



今回はもう一つの棟貸の宿泊施設「家島ヨカテラス」に宿泊しました。日曜日だったのでほとんどの店はお休みでしたが、唯一あいていた本と文具の店に立ち寄り、島内唯一の高校は 2 年後に閉校になることや小学校と中学校が統合になることなど人口がどんどん減っていき、子どももほとんどいなくなっていくまちの姿に不安な心情を聞かせていただきました。「家島ヨカテラス」にチ

ェックインしたあと夕食までの時間、参加者の自己紹介もかねて「いえしまコンシェルジュ」の N さん、A さんと交流をおこない、家島の現状や課題などを聞かせてもらいました。夕食やその後も夜が更けるまで話が尽きませんでした。翌朝には、総務省地域おこし協力隊として家島諸島に着任された O さんに出勤前(乗船前)の忙しい時間のなかを「家島ヨカテラス」にお越しいただき、活動内容や家島の魅力等について話していただきました。交流会等の意見交換のなかで、N さんが「家島には守りたい景色、暮らしがある。この日常である島の暮らしをこれからも守り伝えていくために未来につなぐ活動をしている。」と語っていたことが耳に残りました。一方で島を観光化してほしくない、余計なことはせずにいまのまま変わらずに暮らしを終えたいと希望されている島民もいるそうです。活動をしていくなかでのジレンマでもあるでしょうし、実際に数値の上では人口減少に歯止めはかかっていません。本と文具の店に立ち寄って聞かせていただいた島の現状と将来を不安に思う声がよみがえりました。暮らしを、風景を守っていくためにも人は必要です。そのことは離島の家島諸島だけの問題ではありません。離島は日本の未来の最前線であるということがつよくここに響きました。日常に戻ると日々のことに追われ、旅のことはついつい忘れてしまいそうになりますが、この国の未来の最前線で、今日も島の暮らしを、景色を守りたいと元気に活動され続ける N さん、A さん、O さんに勇気をもらえたような気がします。今回の旅で得た学びや気づきを今後の活動や生き方においてもなにかで還元し、これからも応援し続けていくことが出来ればと、帰ってきた今も思っています。

(吉岡 徹)

## プロ野球観戦に行ってきました

6月27日に、メンバーの笠永さん、田中さん、三ノ浦さん、山下さん、山本さん、スタッフ4人、大学生2人で京セラドームにオリックス対楽天戦を観に行ってきました。

当日はオリ姫デーというイベントをしていて、数量限定のユニフォーム付きチケットを購入できたのでみんなでオリ姫デー限定ユニフォームを着て応援しました。このユニフォームでメンバーのテンションもあがります。試合の方もオリックス打線が爆発。球場のボルテージも自然とあがっていきます。

笠永さんは車いすスペースで観戦。広々としていて落ち着いて観戦できます。田中さんと三ノ浦さんはビールやレモンサワーでいい気分、山本さんは応援のリズムに乗って踊っていました。山下さんは応援の音は苦手だったようですがスポーツ観戦は大好きなので試合を真剣に観ていました。

大学生のふたりは普段グループホームで夜勤に入ってもらっています。メンバーと長時間出かけたりすることがないので良い機会にもなったようです。メンバーとの外出に慣れていないため、京セラドームまで辿り着くことで疲れていたようですが、ふたりとも初めての野球観戦だったようでメンバーと共に楽しむことができたようです。

そして世間は広いようで狭いもので、当会の作業所の職員や他事業所のグループホームの職員もプライベートで来られていて一緒に盛り上がりもできました。最後は笠永さんの車いすスペースのところにみんなで集結。みんなで応援をして記念撮影もして、そしてオリックスも大勝利。楽しい一日となりました。

田中さんと三ノ浦さんはこの日もらったオリ姫デー限定ユニフォームが気に入ったようで、その後も競い合うかのように毎日着ていました。

増田重廣



## おしゃべりの絶えないヘルパー交流会

ヘルプセンター・すきっぷでは、毎年松野農園で交流会をしています。普段グループホームでは2~3人で仕事をしていて、顔と名前が一致しない支援者が多い中、参加者みんなで楽しくおしゃべりしながら料理を作り、親睦を深めています。今年はバーベキューとキンパ、チヂミ作りをしました。



キンパ作りの様子。米が多いとうまく巻けない

参加者が20人を超えるので、野菜を切るなど、材料の準備もすごい量になります。普段から調理をされるヘルパーさん達の手際の良さに感心しながら、みんなで協力して、あっという間に準備が整いました。具材の並べ方、巻き方をレクチャーしてもらい、はじめてキンパを作りましたが、あれもこれもと欲張った結果、海苔で巻けないぐらいの太さになってしまいました。見た目はイマイチでしたが、味はよかったです。

料理の得意なヘルパーが秘伝のレシピで焼いてくれたチヂミは、本格的な美味しさで大好評でした。昨年何人もヘルパーとして友人を紹介してくれている学生は、その友人と参加しました。昔ながらの家屋や庭や畑を活用している松野農園に初めて訪れ、「おじいちゃんの家みたい」と驚いていました。暑い中、楽しそうにバーベキューコンロでお肉を焼いて参加者にふるまってくれました。若さもあつてか、みんな驚くくらい食べっぷりがよく、美味しそうに食べてくれるので、作った人達も作り甲斐があるよと喜んでおられました。



自家焙煎のコーヒーも美味

現在、すきっぷでは10代から80代まで幅広い世代の方が仕事をされています。交流会は、様々な世代の人が一緒に料理をし、楽しくおしゃべりしながら食事をとり、お互いを知る良い機会となっていると思います。僕も毎年、色々なことが経験できる楽しい時間になっています。

すきっぷでは交流会として、他にも年末の門松作りを毎年しています。自分たちで竹を切るところから始め、本格的にしています。ここ数年では留学生も参加しており、「日本の伝統行事を体験できる」と、こちらも好評です。

ひろさわしんべい  
(廣澤新平)

## 酒見敦子さんを偲んで

当会のグループホームらしい職員だった酒見敦子さんが、8月7日にお亡くなりになりました。55歳でした。あまりにも突然の知らせに、私たち職員も、メンバーさんたちも大きな衝撃を受け、今もまだ消化しきれない、言葉にしきれない思いが心の中を渦巻いています。ご葬儀はご家族だけでおこなわれたのですが、数日後ご家族から連絡をいただき、彼女の自宅にあった業務関連の物品を引き取るとともに、彼女の大切にしていた品々をたくさん譲っていただきました。



酒見さんはいつも誰に対してもとても丁寧で、謙虚な姿勢の方でした。前職では約20年間小売業に携わり、管理職経験も長かったため、入職当初は「電話のかけ方」「名刺交換の方法」など“ビジネスマナーのいろは”を私たち“非常識人の集まり”に教えてくれました。どんなことを頼んでも「私でお役に立てるなら」と嫌な顔一つせず、快く引き受けてくれました。メンバーさんたちとの関係もとても丁寧でした。医療的ケアを必要とするメンバーと外出する際は必ず下見をして、車椅子で通れるルートやトイレの場所などシミュレーションを怠らない方でした。決して器用なタイプではないけれど、とにかくいつも一所懸命な方でした。当会には珍しく、社会福祉士の資格を取得しておられましたが、“まだまだ勉強が必要だ”と社会福祉士会の研修にも足繁く通っておられました。日本各地で震災が起これば、「私にできることがあるなら」といち早く現地にボランティアに出かけるなど、思いと行動力にあふれた方で、いつも頭が下がる思いでした。と言っても“真面目一辺倒”なわけではなく、“推し”の話になると目をきらきらと輝かせておしゃべりに興じるなど、私にとっては“気の許せる、信頼できる大切な仲間”の一人でした。彼女のお部屋から譲っていただいた品々は、大好きだった関ジャニ∞（現・SUPER EIGHT）のCD・DVD、洋楽のCD、仏像や大仏の本などなど、品物を見るだけで彼女のキラキラした顔が見え、生き生きとした声が聞こえてくるものばかりでした。

彼女の死から約10日が経ち、メンバーさんたちの生活も職員の業務もこれまで通り続く中気持ちの整理が全く追いつかず、“このままでは、みんなが倒れてしまいそうだ”という状態になり、急遽、酒見さんと関係の深かった仲間たちでお別れ会をおこないました。テーブルには酒見さんがメンバーさんたちと外出した際のとてもいい笑顔の写真が並びました。中央には、“1970年大阪万博の年生まれ”の彼女が15回（それ以上?）も通った“2025年大阪・関西万博”に同僚と出かけた時の写真が飾られました。写真や形見の品を見ながら酒見さんの思い出を語り合うことで少し立ち止まり、悲しみや寂しさ

に浸れる貴重な時間となりました。それでも、まだ“信じたくない”気持ちが続いていることは、メンバーさんたちにも職員にも共通しています。“ある”“存在する”ことは目に見え実感できるけれど、“ない”“存在しない”ことを実感することはとても難しいことに私以上にメンバーさんたちが直面していることも、改めて感じさせられています。酒見さんの訃報をお伝えした時に、ある方からいただいた「今は受け止められないかもしれないけれど、時間が経てば、きっと受け入れられる時が来るから」という言葉を胸に刻み、日々を過ごしています。彼女の死を真の意味で受け入れるにはまだまだ時間もかかるでしょうが、それぞれに揺れる気持ちを支え合いながら、少しずつ進んでいきたいと思っています。

酒見さん、今までありがとうございました。ご冥福をお祈りいたします。

（かつい みさお）



酒見さんと一緒にいろんなところに酒見さんとかいゆうかんに一緒にいきました。

酒見さんと一緒にカラオケにいきました。

酒見さんがなくなったのはさみしかったです。

酒見さんがみんなのことをみまっています。

酒見さんといっぱいあそんでとてもたのしかったです。

天国に行ってもらいすのことをわすれないでね

2025年9月18日木曜日

塚本莉朱実



## こそだ にっき スタッフ子育て日記



「最後やし体育祭来て」。高校3年生の娘が「最後の体育祭」に来て欲しいと言ったのは、今年度に入ってしばらくしてのことだった。「無理ならいいよ」と、反抗期をとっくに過ぎた娘は仕事をする私を気遣う言葉を添えて、やや遠慮気味に言った。中学生になってからは「もう中学生だから」と、娘の体育祭を観覧していなかった。高校生になってからも、それは同じだった。長女でもある娘はあまり無理を言わないところがある。そんな娘からの誘いにこれは行かなくてはと仕事を調整してもらい、行くことにした。「体育祭行くで」と娘に言うと、「やったー」と落ち着きつつも喜びを言葉にした。娘からは体育祭は大阪城ホールですること、まあまあ数の保護者が来てること、などこれまでも話は毎年聞いていた。しかし、今年の体育祭は例年とは違い特別だった。体育祭では放送部が実況や場内放送をおこなうことになっており、他にも当日会場で流れる曲の選曲、構成も放送部の子どもたちでするらしい。放送部の部長になった娘にとってそれはまさに晴れの舞台なのだ。また、体育祭は学年対抗でおこなわれ、優勝した学年には優勝旗が贈られる。今年、学年代表になったことで開会式には優勝旗を返し、高校3年が優勝すれば、閉会式で優勝旗を受け取ることができるという話だった。そして、毎年、だいたい高校3年が優勝するらしい。娘は受け取る気だ。気合が入っているのは娘だけではなかった。高校3年生の保護者会から応援用タオルの販売のお知らせがLINEで届いた。学年のジャージが赤色なので、当日は赤い服と保護者会特注の赤い応援タオルで盛り上げましょうということだった。保護者会の気合に戸惑いつつも、1500円の特注タオルを私も購入した。これで私も気合は十分だ。

いよいよ当日、大阪城ホールは子どもたちと観客の保護者で大盛り上がり、意外とたくさん来ている保護者の数に驚く。あれ話が違うじゃないか、娘から聞いていた「まあまあ数」はこんなに多いのか、両親や祖父母まで来ていて、それはこれまでも本当は来てほしかったのかもと感じてしまうほどだった。子どもの数が多いので娘を見つけるのにも一苦労。場内放送で各クラスの勝負にかける意気込みを紹介、流行りのセリフと歌の一部を多用した恥ずかしくなるような意気込みを全力で読み上げていた。場内放送で流れる娘の放送を心待ちにしていた私は、思っていた放送と違って吹き出しそうになったが、読み終えた瞬間には思わず密かに拍手した。また、高校3年生400人以上でのダンスは圧巻だった。長女を含め子どもたちが頑張る姿に「何回も練習したんやろうな」と、素直に感動した。最後の年に見られて良かったと、うるっとする私だった。そして、体育祭は高校3年生が優勝、娘は優勝旗を受け取る大役を務めたのだった。



わたにまさみ  
(藁谷正美)

## NPO総会を終えて

2025年5月26日(月)に東成区民センター6階小ホールにて、第26回定時総会をおこないました。当日は113名の出席(うち委任状出席者は32名)で、定款に定める総会として進めることができました。

今回も、写真をスクリーンに映して事業報告や事業計画の説明をおこないました。作業所での活動やお花見・太極拳大会、グループホームでの暮らしや旅行、知的障がい者(児)ガイドヘルパー養成講座開講、「みらくるちっぷ」・「みらくる ゆーすと」での外出や子どもたちの日々の様子などの写真を使って2024年度の活動報告をしました。「どんどん」の報告では、ピープルファースト奈良大会や他団体との交流会・北陸訪問の様子が映し出されました。その他事業では、松野農園を中心とした地域・多文化共生の活動、みらくるクラブ、映画の自主上映会の報告をおこないました。8月には、古くからお世話になっている方々にも声を掛けさせていただいて、出発のなかまの会45周年記念イベントを開催しました。たくさんの方に参加していただき、あらためて「つながり」の大切さを実感した1年でした。写真があると、みなさんあれこれ思い出すようで、「あんなことしたな〜!」「またやりたいね!」と、楽しみながら1年間を振り返ることができました。来年も、笑顔いっぱい報告ができたらいいなと思います。2025年度も、みんなが楽しみにしている様々な活動を通して、もっとたくさんの人たちとつながっていきたく思います。

今回の総会をもって、長く理事をしていただいた新崎国広さん・小川博久さんが退任されることになりました。これまでご支援ありがとうございました。新たに就任していただいた川中大輔さん・金和永さんにもご協力いただき、2025年度の活動を進めてまいります。

当会の活動を支えてくださっている全国各地の皆様、いつも温かいご支援・ご協力、本当にありがとうございます。2025年度も認定特定非営利活動法人として、社会が抱えるさまざまな問題に積極的に関わり、より地域の方々と連携していきたく思います。今後ともよろしく願いいたします。



出発のなかまの会では、一緒に働くなかまを募集しています。グループホームや作業所で働いてみたい方、障害のある子どもの支援に関心があるという方はぜひ一度お電話ください。未経験から始められている方もたくさん活躍されています。詳細は右のQRコードから当会ホームページをご覧ください。



ヘルプセンター・すきっぷ 06-6754-3011

活動のあと

5/2 グループホームスタッフ全体会議	7/1 虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会 自立支援協議会役員会
5/8 研修委員会/松野農園ランチ会	7/2 ヘルパー交流会(松野農園)
5/12 出発通信発送	7/3 松野農園ランチ会
5/13 執行委員会	7/4 グループホームスタッフ全体会議
5/14 生野区グループホーム部会【普通救命講習】	7/6 IKUNO サラダボウルプロジェクト
5/20 研修委員会	7/10 虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会
5/21 理事会/生野区学童期子ども支援連絡会役員会	7/12 居場所ネット総会・学習会
5/22 生野区相談支援部会	7/15 大阪府交渉に向けた総決起集会・デモ行進 作業所エッセンス会議
5/23 ビロン(松野農園)	7/16 執行委員会/内部研修(医療的ケア研修/すきっぷ) 生野区学童期子ども支援連絡会/自立支援協議会
5/24 内部研修(発達障害勉強会)	7/17 障大連・グループホーム世話人研修会
5/25 内部研修(職員グッドスタート会議)	7/18 地域共生ケア生野推進委員会/ビロン(松野農園) シン・生野区の空地・空家を利用した食と農のプロ ジェクトをすすめる会定例会
5/26 特定非営利活動法人出発のなかまの会 総会・二者 会議	7/19 内部研修(発達障害勉強会) IKUNO サラダボウルプロジェクト
5/27 執行委員会	7/22 内部研修(「発達障害」の理解①)
5/29 どんどん講演(関西大学堺キャンパス) 生野区 NPO 連絡会役員会・研修	7/24 内部研修(「発達障害」の理解②) 生野区 NPO 連絡会総会・研修会
5/30 シン・生野区の空地・空家を利用した食と農のプロジ ェクトをすすめる会定例会	7/25 執行委員会
5/31 みらくる学習会	7/28 障大連事業所ネットワーク第1グループ会議
6/2~30 紫陽花ギャラリー絵画展示(生野区民センター)	7/29 虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会 どんどん総会①
6/2~7/20 実習生受入(四天王寺大学)	7/30 「杓かなる」上映会打合せ
6/4 執行委員会	8/1 グループホームスタッフ全体会議
6/5 松野農園ランチ会	8/2 IKUNO サラダボウルプロジェクト
6/6 グループホームスタッフ全体会議	8/3 みらくるクラブ【キャンプ準備会】(BOMBA)
6/8~9 奏海の杜感謝祭参加	8/3~9/28 インターンシップ受入
6/9 生野未来学園 サツマイモ植え付け(松野農園)	8/5 どんどん総会②
6/10 虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会	8/6 虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会
6/11 「杓かなる」上映会打合せ 生野区グループホーム部会世話人会	8/6~9/17 実習生受入(桃山学院大学)
6/15 みらくるクラブ【ハイキング】(生駒山)	8/7 執行委員会/生野区相談支援部会役員会 松野農園ランチ会
6/16 内部研修(感染症対策研修①)	8/8~9 みらくる ゆーすと合宿
6/17 内部研修(感染症対策研修②) 作業所エッセンス会議	8/16 IKUNO サラダボウルプロジェクト
6/18 内部研修(感染症対策研修③)	8/20 生野区グループホーム部会世話人会
6/19 ヘルパー募集(近畿大学) 不登校・ひきこもり支援連絡会	8/21 生野区相談支援部会
6/20 生野区相談支援部会	8/22 ビロン(松野農園) 自立支援協議会【ボッチャ体験会】 地域共生ケア生野推進委員会役員会
6/21 内部研修(発達障害勉強会)	シン・生野区の空地・空家を利用した食と農のプロジ ェクトをすすめる会定例会
6/23 「ラジオ下神白」上映会打合せ 障大連事業所ネットワーク第1グループ会議	8/25 障大連・連続研修会
6/24 児童発達支援・放課後等デイサービス運営指導(みら くるちっぴ)	8/26 作業所エッセンス会議
6/25 執行委員会	8/27 執行委員会 内部研修(てんかんの介助と服薬支援①②) 大阪府オールラウンド交渉①
6/26 内部研修(職員グッドスタート会議②) 生野区 NPO 連絡会役員会	8/28 大阪府オールラウンド交渉② 生野区 NPO 連絡会役員会
6/27 地域共生ケア生野推進委員会 ビロン(松野農園) シン・生野区の空地・空家を利用した食と農のプロジ ェクトをすすめる会定例会	8/29 IKUNO サラダボウルプロジェクト
6/29 IKUNO サラダボウルプロジェクト	8/30 内部研修(発達障害勉強会)
6/30 自主勉強会(びえん)	

編集後記

地球環境がますます厳しくなるなか、世界中で自国至上主義の政権が強くなっている。日本初の女性総理の誕生がするかもしれないが、政治への期待は薄く素直に喜べない状況だ。気候の変化でこれまでのようには米や野菜が育つことができず、人件費も物価も上昇し続けている。福祉サービスの報酬がきちんと上がらなければ、ワークもライフも持続可能性が低下するだけだ。(石井香里)

編集人

特定非営利活動法人 出発のなかまの会  
〒544-0011 大阪市生野区田島1-10-30  
たびだち共働作業所内  
TEL 06-6758-6641  
FAX 06-6758-6749  
郵便振替 00910-9-306080  
(特定非営利活動法人 出発のなかまの会)  
ホームページ <https://www.tabidati.jp/> 780部

一九八四年八月二十日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6の日)発行  
発行人 関西障害者定期刊行物会 大阪市天王寺区真田山町二二 東興ビル4階

頒価百円